

製品名: V-ATPase S1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19738**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	ATP6AP1
別名	V-type proton ATPase subunit S1 (V-ATPase subunit S1) (Protein XAP-3) (V-ATPase Ac45 subunit) (V-ATPase S1 accessory protein) (Vacuolar proton pump subunit S1)
遺伝子 ID	537.0
SwissProt ID	Q15904
免疫原	ヒト V-ATPase S1 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 421-470

背景

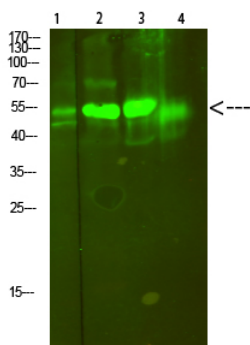
この遺伝子は、真核生物の細胞内小器官の酸性化を媒介する多サブユニット酵素の構成要素をコードしています。液胞 ATPase (V-

ATPase) は、細胞質 V1 (ATP 触媒部位) と膜貫通 V0 ドメインで構成されています。V-ATPase 依存性の細胞内小器官の酸性化は、タンパク質選別、酵素前駆体の活性化、受容体を介したエンドサイトーシスといった細胞内プロセスに不可欠です。この遺伝子がコードするタンパク質は、V-ATPase を介した神経内分泌顆粒の酸性化を促進する可能性があります。また、このタンパク質は初期発生においても役割を果たしている可能性があります。 [RefSeq 提供、2013 年 8 月],機能:液胞 ATPase は、真核細胞内のさまざまな細胞内区画の酸性化を担っています。 ,類似性:液胞 ATPase サブユニット S1 ファミリーに属します。 ,サブユニット:少なくとも 10 個のサブユニットで構成されています。 ,組織特異性:普遍的 です。 ,

研究分野

酸化リン酸化、リソソーム、コレラ菌感染、ヘリコバクターピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達

画像データ



1.マウス肺、2.マウス脳、3.マウス脾臓、4.マウス腎臓の各細胞を、V-ATPase S1 ウサギポリクローナル抗体 (1:500 希釈、4℃、一晚) を用いてウエスタンブロット解析した。二次抗体: ヤギ抗ウサギ IgG IRDye 800 (1:5000 希釈、25℃、1 時間)